

# 香南市の学校の未来を考えよう

## ～香南市学校等の規模適正化等基本方針～

■学校教育課 ☎50-3019

### ●方針策定の背景と目的



全国的な過疎化や少子高齢化による香南市の児童・生徒数の減少



発生が予想される南海トラフ地震による津波被害

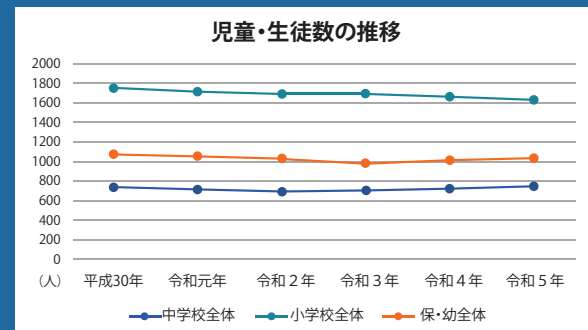
#### 目的

子どもたちが安心して学び合える学習環境を整えるために、規模適正化等基本方針を策定。

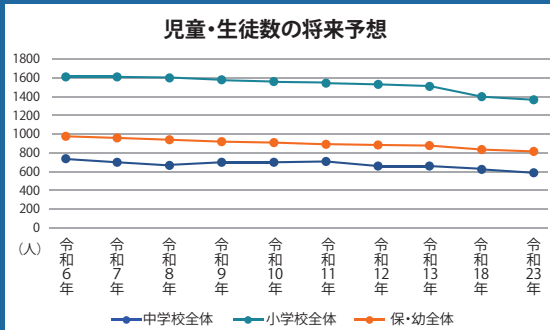
#### 規模適正化等基本方針とは

地域に合った保育所・幼稚園・小学校・中学校の配置(通学距離や津波を想定した立地)や規模(学級数)の基準を示したものの

### 学校規模の現状



### 学校規模の将来



#### 学校全体の学級数

1～5学級の過小規模校	1校
6～11学級の小規模校 (中学校3～11学級を含む)	7校
12～18学級の適正規模校	2校
19～30学級の大規模校	1校

学校規模の現状: 市全体の児童・生徒は令和3～5年度にかけて増加傾向ですが、小学校全体の人数は令和3年度以降減少しています

学校規模の将来: 令和6年に比べ令和23年度には、中学校140人、小学校約250人、保・幼約160人減少する見込みです

### ●基本方針の中でも特に重要な考え方

- ①津波浸水想定区域に位置する小学校・中学校・保育所・幼稚園は浸水想定区域外に位置する施設と統合
- ②既存の学校等施設をできる限り活用
- ③目指す学校等の規模は、小中学校とも1学級20人以上で、1学年2学級以上とし、保育所・幼稚園においては、特に集団活動が重要となる4歳児・5歳児クラスについては、20人以上となることを目指す
- ④市全体の校区の見直しも含めて検討し、通学区が拡大する場合は地域の実情に応じてスクールバス等を行う

※今後は、地域の方々や保護者のみなさまに基本方針の説明をおこない、ご意見を伺う予定です。皆様からのご意見を参考にし、令和6年度には具体的な学校再編案を検討・作成することとしています。



南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報を「南海トラフ地震臨時情報」といいます。南海トラフ地震臨時情報には以下の3項目があります。 ■防災対策課 ☎57-8501

**【巨大地震警戒】**  
南海トラフ地震震源域の東側でマグニチュード8クラスの地震が発生し、南側で大規模地震の発生する可能性が高まった場合に発表されます。

**【巨大地震注意】**  
南海トラフ地震震源域内でマグニチュード7クラスの地震が発生し、南海トラフで大規模地震の発生する可能性が高まった場合に発表されます。

**【調査終了】**  
調査を行ったが「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない場合に発表されます。

南海トラフ東側で地震発生

～1週間
1週間～2週間
2週間～

防災対応 対象地域	巨大地震警戒対応	巨大地震注意対応	通常の生活に戻る
より内陸の地域	地震への備えを再確認する等警戒のレベルを上げて生活	地震への備えを再確認する等警戒のレベルを上げて生活	大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないため、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う
住民 事前避難 対象地域 (下記参照)	全住民避難	地震への備えを再確認する等警戒のレベルを上げて生活	大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないため、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う

**香南市住民事前避難対象地域図**  
(■色の地域)

香南市では「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合、30cmの津波が30分以内に到着する地域に避難指示を発令することとしています。避難情報等の詳しい内容等については下記の香南市ホームページよりご確認ください▼

地震に備えての準備もお忘れなく!

■ 住民事前避難対象地域 (30cmの津波が30分以内に到達する地域)

■ 30cmの津波が30分以上で到達する地域